

芽生え楽しみ！



上尾丸山公園では、ボランティア「上尾水辺守」と一緒に作業をするイベントを毎年開催している。2022年2月から3月、湿地の再生と浅場整備をする「みんなで水辺守 大池に浅場をつくる編」を3回開催。親子連れや学生など計33人が、上尾丸山公園の水辺の再生に取り組んだ。

湿地再生 イベントを開催



水草の種を含んでいそうな土を掘りとって大池の浅場へ！

バーベキュー場の周辺に広がっている、ヨシやヤナギが繁茂する湿地。40年以上前には水田だったが、今は枯れ草の堆積も進み、陸生植物のセイタカアワダチソウやノイバラが増加していた。この場所を生物多様性の高い湿地に戻すのと大池に浅場をつくるのが今回の作業イベントだ。
参加者は長靴姿で湿地に入っていく。枯れ草を取り払い、湿地に入り込んだ木を伐る。地面が見えてきたら、土を掘って、水たまりを広げていく。3回の行事で、ヨシ原の中にぽっかりと開けた湿地ができた。
一方の大池では、既存の2ヶ所の浅場に加え、新たにもう1ヶ所を整備した。大池は全周が垂直護岸になっており、水域から陸域へとなだらかに変化していく移行帯がなかったが、かいぼりをきっかけに、護岸の前に段を造り、水深の浅い環境を整備している。こうした浅場には、ガマやコナギが生育し、チョウトンボやカイツブリも見られるようになっていく。
この浅場に、未開園地で掘った土を撒き出した。この土は、未開園地が水田だった



作業前は、一面枯れ草で覆われていた未開園地。作業後3月末には…

時代に生育していた水草や湿生植物の種子を含んでいる。当時の水田雑草は、今では絶滅危惧種になっているものもある。イベントで作業した2ヶ所が今後どうなっていくのか、楽しみに見守っていききたい。

何だかいい雰囲気の水辺に…！？



続報をお楽しみに！

めざせ！大池再生

みずべもり通信

- 湿地再生は棘との闘い -



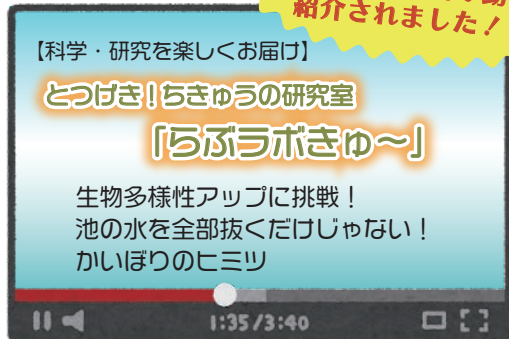
棘と格闘しながら切り拓く

北口駐車場から斜面を降りて林を抜けると、目の前にヨシ原が広がる。上尾の原風景が荒川べりまで続いている、おすめの散歩道だ。
ここは湿地帯に棲む昆虫や植物の貴重な生息場所だが、枯れた植物が堆積して乾燥化が進み、外来種のセイタカアワダチソウなどが生育する陸地へと変わりつつあった。
この湿地の陸化を止めて湿地を再生しようと、正月早々、上尾水辺守による作業が始まった。ヨシやつる植物を刈り、低木を伐り、堆積した枯れ草を取り除く。単純な作業だが、実行するのは簡単ではない。ヨシの陰はノイバラだらけだ。するどい棘が手に刺さり、作業ペースを乱される。茨の道をどうにか乗り越えようと、枯れ草の下にあった地表が顔をのぞかせ、小川も見えるようになった。
明るくなった湿地に、どんな植物が生えてくるのか楽しみにしている。



作業前。湿地が藪化していた

湿地再生活動が動画で紹介されました！



2月に開催した「みんなで水辺守大池に浅場をつくる編」の様子が動画になりました。湿地再生についてわかりやすく解説しています！



注目のトピックス

2021年 アメリカザリガニ防除結果

上尾丸山公園では、水辺の生物多様性を保全する目的でアメリカザリガニを駆除しています。2021年はボランティア「上尾水辺守」による作業に加え、市民との協働イベント「みんなで水辺守〜アメリカザリガニ駆除編〜」を計12回開催のべ334人が参加しました。
2021年に捕獲したアメリカザリガニは計6132匹。このほか、駆除に協力する一般来園者が上尾市自然学習館へ持ち込んだ分もありました。2022年は、水草やトンボが豊かな大池を目指して、さらにワナ数を増やし、来園者の協力も得ながら駆除を進めていきます。



水辺守によるアメリカザリガニワナ回収作業



旬の一枚

ダイサギ(大鷺)

浅い池や川に棲む大型のサギ類。園内では冬に観察できます。浅くなった池や水路をゆっくり歩き、獲物を見つけると電光石火の動きで首を伸ばして捕らえます



大池の自然情報を発信しています！

大池自然再生日記

毎月更新！旬の生きもの情報と取組を紹介

https://www.city.ageo.lg.jp/page/046120042001.html

上尾市 大池

検索



上尾市公式 Youtube 「あげTube」

大池の生きものや取組を動画で紹介

